

海外で日本のルール教育、県内企業とマッチング

外国人ドライバー
養成プロジェクト

スムーズな「外免切り替え」を支援するプロジェクトを発表した関係者＝7日、大分市

教育などはミャンマーで実施する。現地で日本語教育や日本への送り出しを手がける機関と提携。人材を発掘し、日本の言葉や文化、交通ルールなどを半年かけて教えながら、県内企業との面談(対面かオンライン)を実施する。

候補者は就職の内定を受け、特定技能を取得した後

人材紹介業の朝日キャリアバンク(姫野秀信代表取締役、大分市)など4者は7日、外国人ドライバーの養成や就職の仲介をするプロジェクトを始めた。運輸業界の人手不足が背景にある。ただ、海外で取得した運転免許を日本の免許に切り替える「外免切り替え」が昨年10月に厳格化され、ネックになっている。海外で日本の交通ルールを教育して県内企業とマッチングするなど、人材発掘から定着までを一貫して支援する。

4者で開始 「外免切り替え」に対応

に來日。外国人技能実習生の入国後講習などを手がける「ティ・エス・ケー大分校」(大分市)で、外免切り替えの指導を受け、試験通過後に就業する。

すでに人材発掘を進めており、2026年末から27年初めには3〜5人程度の候補者受け入れを目指している。

外免切り替え制度については、国会などで「簡単すぎる」との指摘を受けて厳格化した。知識確認では10問出題し7割の正答での通過から、50問出題9割以上の正答に変更。通過率は24年の92.5%から、25年10〜12月の42.8%に減少している。

切り替えには期限があり、トラックドライバーで入国後最長6カ月、バス・タクシードライバーは同1年以内に合格する必要がある。出国前から事前に準備をすることで余裕を持って試験対策に臨める。

姫野代表取締役は「国内でおそらく初めての取り組み。九州、日本全体に広げていきたい」と意気込んでいる。(鈴木幸一郎)